

議事概要記録

開催日時	平成 26 年 5 月 31 日 (土) 13 : 00 ~ 14 : 50	開催場所	済生会和歌山病院 7 階会議室
会議種別	平成 26 年度 第 2 回理事会	議長	畑 忠良
		書記	田中 規仁
出席者 <敬称略>	玉置 達紀、竹中 正人、畑 忠良、木下 博之、大石 博晃、田中 規仁、 蓬台 克之、丸澤 佳子、栗林 伴有、瀧口 良重、今西 数彦、瀧谷 雅彦、脇村 小津江、 村田 正吾、14名		
欠席者 <敬称略>	田中 久晴、須賀 洋、勝山 浩樹	オブザーバー	久保 光史、田原 靖子 石井 啓子、神藤 洋次
次 第			
議事概要	報告事項		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会長報告 2. 第 2 回常務理事会報告 3. 事務局報告 4. 学術部報告 5. 経理部報告 6. 各種委員会報告 <ol style="list-style-type: none"> (ア) 公益事業活動 (イ) 定款・渉外 (ウ) 精度管理 (エ) データ標準化 (オ) 会誌編集 (カ) ホームページ (キ) 会報 (ク) 月例行事予定表 7. 連盟 8. その他 		
決議事項 及び 継続事項	審議事項		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害に関する研修会について 2. 検査説明・相談ができる技師育成事業について 3. その他 		
決議事項 及び 継続事項	冒頭に会長から挨拶があった。		
	<p style="text-align: center;">報告事項</p> <p>会長報告</p> <p>平成 26 年度日臨技定時総会にて資格審査委員として出席した。特に紛糾等もなく開催したとのことであった。</p> <p>6 月 14 日に近畿支部幹事会が開催されるとのことであった。</p> <p>年度が明けたことにより、病院協会や知事懇談等の、他団体との会議が多く行われていると報告があった。</p> <p>他団体との会議において、急きょ和臨技事業として災害フォーラムの開催の必要性を感じたとの事。急きょ企画申請し本会にて審議し、開催する方向で承認された。</p>		

第2回常務会理事会報告

先の会長報告にあった災害フォーラムの件について、日時や講師の詳細について話し合ったことを報告した。

表彰審査委員会規程にかかる各種表彰の基準に関する内規（仮称）について、学術部長より具申があり、検討したことを報告した。

今年度中に一般社団法人和歌山県臨床検査技師会総会運営規定（仮称）を作成し随時、理事会にて審議頂きたい旨の報告をした。

施設認証1000施設の達成のための説明会を開催したいと天理大学の山本教授（前日臨技執行理事）から依頼があり、和臨技として承諾することとした。開催概要については今後の継続審議する事になったと報告した。

和歌山県医学検査学会運営規程（仮称）案について検討した。草案の段階であるため、具体案になれば理事会にて審議を頂くと報告した。

事務局報告

過去のアジア研修等のHIV関連事業について、第一生命保険株式会社第66回保健文化賞に日臨技を介して第1生命保険株式会社に申請した。

日臨技より平成26年度助成金について通達があり、今年度は大きく減額されていた内容であった。よって、和臨技としては到底承服できかねないと異議を申し出た。その後、「生涯教育推進研修会助成金コース選択方式」と再度通達があり、昨年・一昨年同様の1研修5万円の助成が得られることとなった。

日臨技より、議員立法 臨床検査技師等に関する法律及び医療法の改正骨子（案）通達があった。

和歌山県病院協会より第19回和歌山県病院協会学術大会シンポジウム「医療安全について」のシンポジスト推薦依頼があり、済生会和歌山病院の久保技師を推薦した。

和歌山県の日臨技総会に掛かる議決権行使書回収率は78.98%（248/318）であった。

日臨技より、認定病理検査技師制度指定講習会の開催通達と受講者推薦依頼があった。本件については玉置会長から日臨技に対し、特例を含めた内容であるか問い合わせを行うこととなった。

学術部報告

日臨技生涯教育推進研修会助成金について、前年度同様に研修会毎に最高5万円の助成金を最大20件まで受けるコースを選択し、研修会終了後には決算報告書と参加者名簿を日臨技に提出するとのことであった。

第17回学術部一泊合同研修会について、7月5日、6日にかんぽの宿紀伊田辺にて開催予定であると報告があった。内容は輸血検査から中島志保技師（和歌山県立医科大学附属病院）、生理機能検査から森下真由美技師（日本赤十字社和歌山医療センター）から症例検討が提示する予定で、臨床講演は『当科で行っている腹腔鏡下手術』として紀南病院産婦人科部長 林子耕 先生から口演いただくとのことであった。

第19回和歌山県病院協会学術集会平成26年10月13日（月・祝）アバローム紀の国について、シンポジウム『医療安全について』に久保光史技師（済生会和歌山病院）をシンポジストとして推薦した。内容は「臨床検査業務の医療安全-精度管理はなぜ必要か?-」とのことであった。

経理部報告

特になし

各種委員会報告

(ア) 公益事業活動

特になし

(イ) 定款・渉外

表彰審査に掛かる各種表彰の基準に関する内規（仮称）を模索中と報告があった

(ウ) 精度管理

引継ぎスケジュールより若干遅れているとのことであった。班長・各委員に対し今年度のサーベイのねらいや、使用する試料の確認を含めたメール会議を開始したとの報告があった。

(エ) データ標準化

本事業は、今年7月の配布試料の測定でもって完結との報告であった。

5月11日に日臨技臨床検査データ標準化事業全国代表担当者会議がり、平成25年度事業報告、日臨技精度保証施設認証制度、臨床検査データ標準化事業の2014年度計画（案）の詳細な説明があったとのことであった。

基準検査室活動計画案として、実技を含む酵素項目の常用基準法技術取得を目的とした講習会の開催を予定しているとのことであった。

基幹施設の役割案として、愛知県技師会例を元に日臨技がC、D評価施設を各府県技師会に連絡し、府県基幹施設が是正を行う連携を今後行いたい（構想）との報告があった、とのことであった。

認定精度保証検査技師制度について、日本臨床化学学会と共に認定精度保証管理技師（仮称）制度構築にむけて進行中であると、日臨技松本副会長から説明があったとのことであった。

施設認証精度事業・標準化事業・日臨技精度管理事業の3事業を2014年から長期間を見据えて共同運営を進め、標準化事業の統合する予定と、日臨技山本慶和執行理事から説明があったとのことであった。

基幹施設及び代表担当者の届出と都道府県標準化委員会名簿の届出が6月末日の締め切りとのことであった。

次年度の全国代表者会議は開催しないとのことであった（今年度で完結するため）。

(オ) 会誌編集

編集員として、中塚技師（県立和歌山医科大学附属病院）、瀧谷技師（海南医療センター）との報告があった。会誌和臨技の投稿規定を作成中とのことであった。

(カ) ホームページ

特になし

(キ) 会報

今年度から石井理事も加わり、さらに内容も充実したいとのことであった。

(ク) 月例行事予定表

現状は8社申込みとのことであった。

連盟報告

5月24日、日臨技会館にて執行委員会が開催された。平成26年度活動方針基本計画案の策定として、①臨床検査技師の法制度化改革（急性期病院での検査技師定数の設定などを求める）、②各党・各省庁へ日臨技主導による要望書の提出、③連盟組織基盤整備（10,000規模の会員確保目標〔各府県技師会20%の会員確保〕）の向上を目指す、とのことであった。

都道府県支部活動費について「都道府県支部における会費収入実績の25%を上限」として予算化するとのことであった。

組織基盤整備の1つに、連盟ホームページの活用法について報告があり、HP上で会費登録や会費納入手続きができる運用を目指した報告があったとのことであった。

表彰審査委員会より

前回の理事会等で承認が得られた「新人賞」の創設や（特別賞から）「学術奨励賞」への名称変更について、表彰審査委員会規程の改定を定款検討委員会に申請すると同時に、本規程にかかる各種表彰基準に関する内規（仮称）の策定（案）について審議していると報告があった。今後の理事会で進捗を報告するとともに、審議を仰ぎたいとのことであった。

検体測定室に関するガイドラインについて

調剤薬局等で簡易的に行う検査について、臨床検査技師等に関する法律の規定により登録を受けた衛生検査所とは別に、開設7日前までに書面にて地方自治体医政局に届け出れば開設できる「検体測定室に関するガイドライン」について、説明会に参加したとの脇村理事から報告があった。

診療の用に供しない検体検査を行う施設と明言されており、特定健康診査や健康診断等ではないこと、検体の採取及び採取前後の消毒・処置については、受検者が行うこと、検体の測定結果については、受検者が判断するものであること、診療の用に供するものではないため、受検者が改めて当該医療機関の医師の指示による検査を受ける必要があること、等々書かれている。

運営責任者、精度管理、測定業務に従事する者等に臨床検査技師が掲げられている事、検体測定室の環境整備や、標準作業や書作業日誌といった台帳の作成義務などが掲げられているとのことであった。

輸血検査実施状況確認のためのアンケート実施について

第58回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会（総会長：和歌山医大名誉教授 中熊秀喜）が和歌山医大病院で開催し、シンポジウム「輸血に関する認定制度の現状と問題点」での輸血認定技師の立場からの発表に関して、和臨技サーベイ輸血項目参加施設を対象にしたアンケートを実施し、認定輸血検査技師の導入目的が達成されているかを検証したい旨の依頼が、和医大輸血部の松浪美佐子技師から要請があった。

和臨技としては、申請書の通り和臨技サーベイ輸血部門参加施設に限り、各施設宛名の封筒などを個々に用意し、日赤栗林理事とり月例行事予定表とともに配布することで承認を得た。また、回収は自身の責任でもって行うこととした。

総会について

総会運営について、例年では拍手でもって各議案の承認を得ていたが、今年度から挙

手制にて承認を得たい旨を事務局から申し入れをした。

また、次年度以降の総会に向けて、総会運営規程（仮称）を作成したい旨の申し入れも事務局から行った。

審議事項

災害に関する研修会について

冒頭に、会長報告であったように、災害フォーラム開催の必要性を感じ、急きょ企画申請を行い開催する方向で承認された（会期は12月20日・JA会館）。

講師陣もほぼ確定とのことであった。

検査説明・相談ができる臨床検査技師養成講座について

会期は10月18日・19日に、紀三井寺はやしにて開催することについて審議した。内容は日臨技指定カリキュラムに沿った内容で行い、また、講師陣についてもほぼ確定であるが、若干調整中とのことであった。本会にて承認された。

第36回和歌山県医学検査学会について

申し合わせ会議（キックオフミーティング）が5月10日に行われた。平成27年3月1日（日）に鮎茶屋（有田）で行い、前日2月28日（土）に学会関連行事を行うとした。

学会長は畑忠良和臨技副会長、実行委員長は石井啓子理事とした。事務局・会計に関しては、各地区で協議し検討することとした。学会テーマについては引き続きメール会議することとなった。

本学会が、中紀地区担当時には有田地域→日高地域→海南地域として持ちまわることとし、学会長についても、その時の理事会役員や状況によって選出し開催場所等々にこだわらないことと、その他役員も実行委員長が定め学会長の承認をえることとした。

近畿支部医学検査学会について

和歌山県は、第59回医学検査学会開催準備のため、近畿支部医学検査学会開催順を3ヶ年後回した経緯がある（一昨年、白浜での関西支部医学検査学会（第52回））。

他県技師会から、本来の持ち回りに戻してほしいと申し入れがあり、近畿支部幹事会の話し合い次第では元に戻る可能性（戻れば28年度開催担当）があることを、あらかじめ承知いただきたいと会長より申し入れがあった。本件については近畿支部より要請があれば受け入れると言うことで理事会承認を得た。

精度管理委員会より

精度管理報告書について、CD配布と同時に冊子配布の要望が会員から有ったことが伝えられた。本事業に関しては無料で実施している事や、試料調達に費用が掛かる事、ペーパーレス化や経費削減を行う必要性から、お断りする方向で理解を得るように指示された。また、委員会側も報告書レイアウトの画一化等も含めて、見やすい報告書作りなどの運用を再考することとなった。

その他

第59回日臨技医学検査学会から日臨技関西支部医学検査学会（52回）に引き継いだ

	PC の OS が Windows XP である。今後使用するには PC 更新が必要かもしれないとのことであった。				
記録作成	平成 26 年 6 月 10 日	氏 名	田中 規仁	提 出	平成 26 年 6 月 11 日

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可